

◆4番（小川義昭君） 議席番号4番、市民クラブ、小川義昭です。

通告に従いまして、議案第116号白山白峰温泉スキー場の指定管理者の指定についての賛成討論を行います。

議案第116号白山白峰温泉スキー場の指定管理者の指定については、ただいま生活経済常任委員長から報告ありましたように、過日の生活経済常任委員会にて付託審議の結果、全会一致で否決され、本会議に移されましたが、私は、今事件処分案件について賛成するものであり、賛成理由を明確に述べたいと思います。

まず、白峰温泉スキー場の経緯について若干述べさせていただきます。

白峰地区は、日本でも有数の豪雪地帯であり、その特性を生かした冬季の地域振興策として、昭和46年12月にスキー場がオープンしました。これまで二度の全国中学校スキー大会を初め、中部日本スキー大会や県体、国体予選など、数多くの大会を開催した実績から、石川県競技スキーの振興に大きく貢献してきました。

合併後は、新市・白山市として、山ろくのスキー場存続問題について幾度となく議論を重ね、特に今回の白峰温泉スキー場の存続については、平成19年6月議会でスキー場対策特別委員会として、スノースポーツの観点から、体育施設として、県に対して支援を強く要請し、その推移を見守った上で判断するとの結論を出しました。

一方で、平成19年4月、白峰区長、市体育協会白峰支部長、市スキー協会長から市長及び議長に対し、同スキー場は公認コースを有していることから、競技専用施設への転換と石川県に対し、財政面の支援を要望し、さらに白峰地域の振興のためには、スキー場の有無は地域全体の存続にかかわる問題なので、ぜひ同スキー場の存続を望みますとの要望書が提出されました。

そこで、平成19年10月、市長、議長、関係議員が県に出向き、中西県教育長、山岸副知事に対し、同スキー場の支援・運営を強く要望した次第であります。

その後、平成20年12月議会において、スキー場対策特別委員会の結論を織り込んだ「白山白峰温泉スキー場及び西山クロスカントリー競技場の運営に関する決議」を採択し、再度、県に提出しました。

同時に、12月議会において、平成20年7月法人の設立認可を受けた地元NPO法人白峰スノースポットが、同スキー場をぜひ運営したいとの強い要望があり、運営形態を競技専用スキー場へと変更し、昨年のみ同NPOに運営を認めたところであります。

ちなみに同スキー場に要した昨年の施設運営費約2,700万円は、市が1,500万円、県が500万円支援し、残りは地元NPOの負担とリフト利用料収入で充当したとのことでありませ

ずか1,000人足らずの町の人たちが、地域振興の思いで、約500万円のスキー場運営資金を出し合い、地元の子供たちや高校生、そして地域の人たちがボランティアでスキー

場の草刈りや整備を行い、スキー関係団体と一丸となり、各種スキー大会の運営に当たったとのこと。その結果、大会関係者から高い評価を得たとのことでもあります。また、地元NPOの運営により、19人の新たな雇用が生まれたとのことでもあります。

私は、白峰地区の人たちのこの熱意、意気込みが大事であり、このことを大切にしていなければならないと思いますし、このことがまさに地域住民が一体となった白峰地区の地域振興策ではないかと考えます。

地元NPOは、今シーズンも運営資金を募り、同スキー場の指定管理を受けられるとの思いで、これから準備にかかるのではないのでしょうか。

本市の同スキー場にかかる年間経費は、地元NPOに指定管理した場合 1,400 万円、休止した場合は土地賃借料、雪崩防止対策などの維持費に 1,600 万円と、むしろ休止したほうが年間経費は多くかかります。したがって、市の財政面からいっても地元NPOに指定管理したほうが得策かと考えます。たとえ金額がわずかに逆転しても、同じ市民の皆さんから預かっている税金を投入するのであれば、いずれのほうで経済効果が出るかは明白かと考えます。

また、県は同スキー場に対する支援は、昨年 500 万円でしたが、今年度は 800 万円程度を考えているとのことであり、わずかではありますが、歩み寄った感は否めません。

私自身、議会が採択した議会決議を重んじるのは当然でありますし、同スキー場の運営形態から考えても、当然、県が主体的に運営すべきだと考えます。しかし、平成 19 年 10 月以降、2年間にわたり、幾度となく県に要請してもこのような状況であれば、私ども市・議会が同スキー場は県が主体的に運営すべきだとの考えを理解、納得、実行してもらうには、もう少し時間がかかると考えます。

したがって、今年度のスキーシーズンを前にした現段階では、白峰地区からの強い要望もあり、白峰地区の地域振興策の一環からしても、白山白峰温泉スキー場の指定管理者の指定を行い、並行してここは生活経済常任委員長の報告にもありますように、議会・執行部、そして関係団体などが一丸となって、今まで以上に積極的に県に対して陳情することが必要と考えます。

もしこの議案が否決となれば、同スキー場の運営に大きな不安を感じ得ません。しかも、地元NPOの昨シーズンの運営実績が無駄に終わるとともに、せっかく立ち上げたNPOの皆さんや白峰地区の皆さんの熱意、意欲、意気込みをそぐだけで、地域の停滞、沈滞にもつながりかねません。

さらに、その後の白峰地区の地域振興策が大きな問題として浮上してくるかと考えます。地元のやる気、熱意、その熱い「火」を消してはならないと考えます。

また、来シーズン同スキー場で大会を楽しみにしている子供たちの期待、夢を大きく裏切ることになり、競技スキーを愛する子供たちを初め、競技関係者に大きな不安を与えるものかと考えます。

以上、白山白峰温泉スキー場の指定管理者の指定についての賛成討論といたします。

以上です。